

6. 生涯学習に関する市民意識の現状「令和元年度生涯学習に関する市民意識調査結果より」

(1) 調査の概要

(ア) 調査の目的

現行の「北九州市生涯学習推進計画」（平成28年度～令和2年度）の後継となる新たな生涯学習推進計画を策定するに当たり、一般市民をはじめ市民センター等利用者や関係者など幅広く意見を聴取し、新たな計画に反映するため。

(イ) 調査対象・回収結果

| | 調査対象 | 配布数 | 有効回答数 | 有効回答率 |
|---|---------------------------------------|--------|--------|-------|
| ① | 住民基本台帳より無作為に抽出した北九州市在住の20歳以上の市民 | 3,000件 | 741件 | 24.7% |
| ② | 市民センター利用者及び生涯学習センター利用者 | 1,720件 | 1,340件 | 77.9% |
| ③ | 市民センター関係者 (まちづくり協議会会長・市民センター館長・職員) | 520件 | 465件 | 89.4% |

(ウ) 調査方法

- ① 郵送調査
- ②、③ 市民センター及び生涯学習センターでの直接配布

(エ) 調査内容

- ①、② 「生涯学習について」 / 「学習活動について」 / 「地域活動について」 / 「地域との関わりについて」 / 「生涯学習の推進について」 / 「家庭教育について」
- ③ 「市民センターで取り組んでいる生涯学習について」 / 「生涯学習の推進について」

(オ) 調査時期 令和元年7月8日～7月31日

(カ) 調査実施機関

調査・企画：北九州市市民文化スポーツ局生涯学習課
集計・分析：株式会社東京商工リサーチ

(キ) 調査結果の読み方及び注意事項

- 図表中の構成比率は、小数点第2位以下を四捨五入している関係で、必ずしも100%とはならないことがある。
- 複数回答の設問は回答が2つ以上ありうるため、合計100%を超えることもある。
- 図表中の「N」とは回答件数の総数のことで、100%が何件の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。

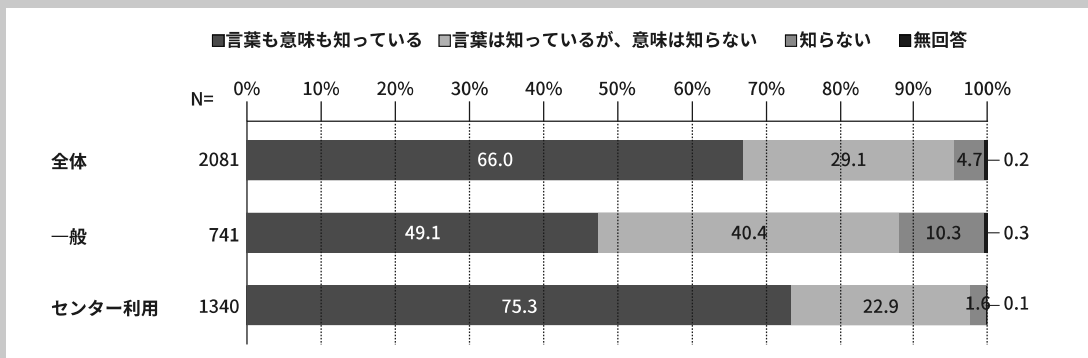
(2) 生涯学習に関する情報

○「生涯学習」という言葉の認知度の割合は約9割以上

生涯学習の認知度は、全体では「言葉も意味も知っている」が66.0%と最も多く、次いで「言葉は知っているが、意味は知らない」が29.1%、「知らない」が4.7%となっています。

一般市民と市民センター利用者及び生涯学習センター利用者（以下、センター利用者）を比較すると、「言葉も意味も知っている」の割合は、センター利用者（75.3%）が一般市民（49.1%）を26.2ポイント上回っています。（図表1）

【図表1 「生涯学習」という言葉についての認知度】



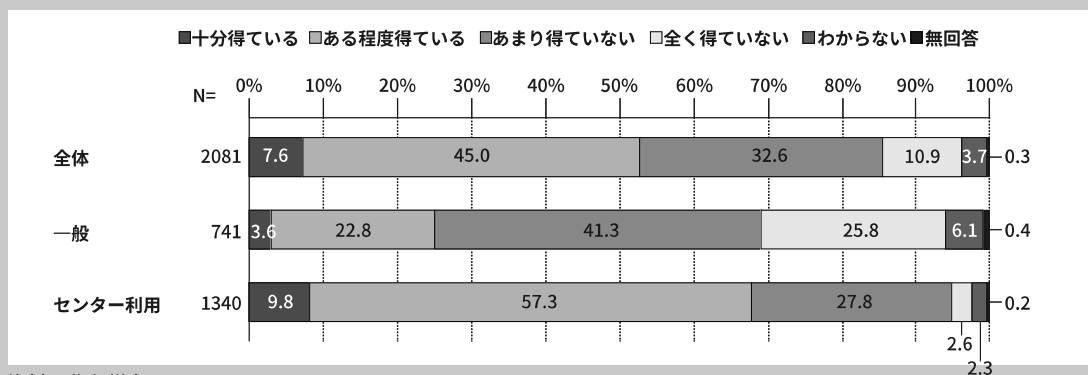
資料：北九州市

○生涯学習に関する情報を「得ていない人」の割合は約4割

生涯学習に関する情報は、全体では「十分得ている」と「ある程度得ている」を合わせた『得ている』は52.6%、「あまり得ていない」と「全く得ていない」を合わせた『得ていない』は43.5%となっています。

一般市民とセンター利用者を比較すると、一般市民は「あまり得ていない」（41.3%）が最も多く、一方、センター利用者は「ある程度得ている」（57.3%）が最も多くなっています。また、『得ている』は、一般市民（26.4%）で、センター利用者（67.1%）となり、差は40.7ポイントと大きな差がみられます。（図表2）

【図表2 生涯学習に関する情報量についての満足度】



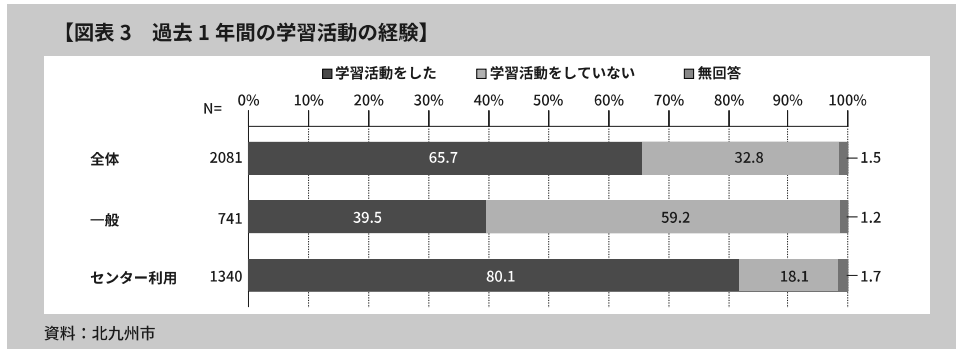
資料：北九州市

(3) 学習活動への取り組み

○「学習活動をした人」の割合は約7割

学習活動の取り組み状況として、全体では「学習活動をした」が65.7%、「学習活動をしていない」が32.8%となっています。

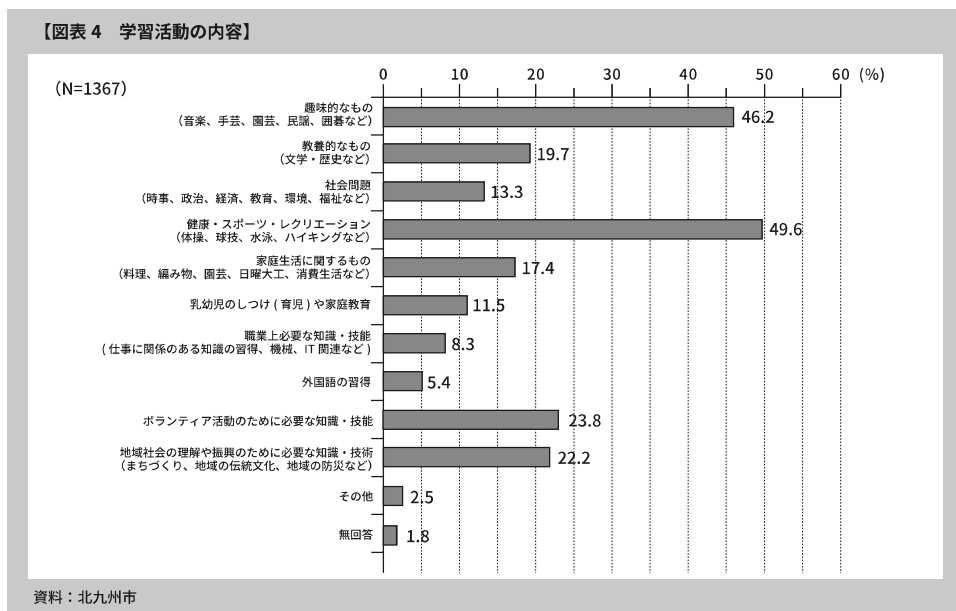
一般市民とセンター利用者を比較すると、一般市民では、「学習活動をした」が39.5%と4割を下回ったのに対し、センター利用者は80.1%と、倍以上の差となっています。(図表3)



○学習活動をしたことで、「自身のスキルアップ」「仲間や友人ができた」

学習活動の内容は、「健康・スポーツ・レクリエーション（体操、球技、水泳、ハイキングなど）」が49.6%と最も多く、次いで「趣味的なもの（音楽、手芸、園芸、民謡、囲碁など）」が46.2%、「ボランティア活動のために必要な知識・技術」が23.8%となっています。

一般市民とセンター利用者を比較すると、「ボランティア活動のために必要な知識・技術」はセンター利用者（27.1%）と、一般市民（11.9%）と比べ15.2ポイント高く、「職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得、機械、IT関連など）」は一般市民（19.1%）と、センター利用者（5.3%）と比べ13.8ポイント高いという結果となっています。(図表4、図表4-1)



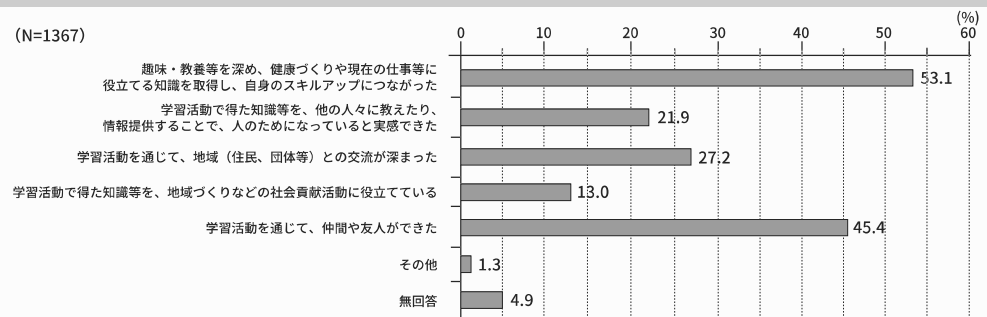
【図表 4-1 学習活動の内容（一般市民、センター利用者）】

| | | 全体 | 趣味的なもの (音楽、手芸、 園芸、民謡、囲碁など) | 教養的なもの (文学・歴史など) | 社会問題 (時事、政治、 教育、環境、福祉など) | 健康・スポーツ・レジャー エーション (体操、球技、水泳、 ハイキングなど) | 家庭生活に関するもの (料理、編み物、園芸、 日曜大工、消費生活など) | 乳幼児のしつけ (育児)や家 庭教育 | 職業上必要な知識・技能 (仕事に 関係のある知識の習 得、機械、IT関連など) | 外国語の習得 | 必要な知識・技術 ボランティア活動のために必 要な知識・技術 | 地域社会の理解や連携のために必要 な知識・技術 (まちづくり、地域の 伝統文化、地域の防災など) | その他 | 無回答 (%) |
|------|---------|--------|----------------------------------|---------------------|--------------------------------|---|---|--------------------------|--|--------|--------------------------------------|---|-----|------------|
| 全体 | | 1,367人 | 46.2 | 19.7 | 13.3 | 49.6 | 17.4 | 11.5 | 8.3 | 5.4 | 23.8 | 22.2 | 2.5 | 1.8 |
| 利用者別 | 一般 | 293人 | 37.2 | 23.5 | 11.6 | 50.5 | 13.7 | 4.8 | 19.1 | 9.9 | 11.9 | 15.0 | 3.4 | 1.0 |
| | センター利用者 | 1,074人 | 48.7 | 18.6 | 13.8 | 49.3 | 18.4 | 13.3 | 5.3 | 4.2 | 27.1 | 24.1 | 2.2 | 2.0 |

資料：北九州市

また、学習活動を通じて良かったこととして、「趣味・教養等を深め、健康づくりや現在の仕事等に役立てる知識を取得し、自身のスキルアップにつながった」が53.1%と最も多く、次いで「学習活動を通じて、仲間や友人ができた」が45.4%となっています。(図表 5)

【図表 5 学習活動をして良かったこと】

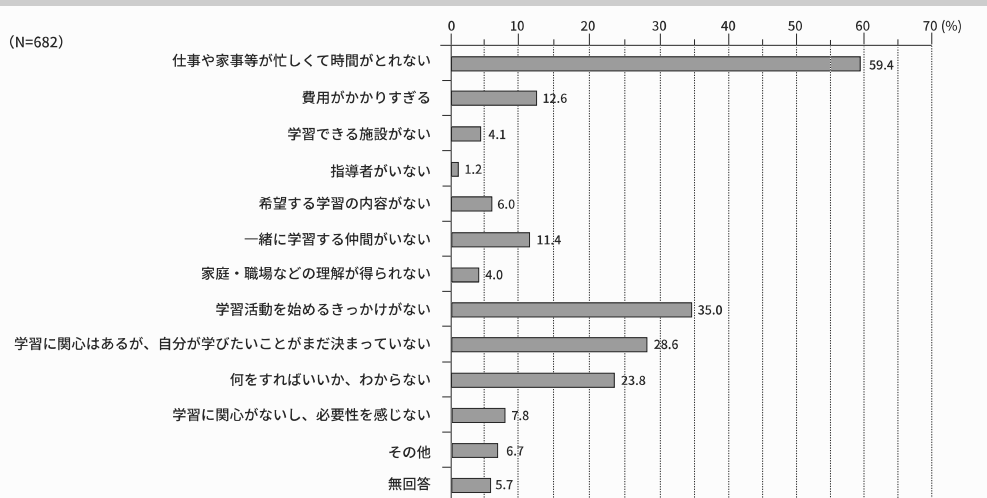


資料：北九州市

○学習活動を行っていない最も多い理由は「時間がとれない」

学習活動を行っていない理由は、「仕事や家事等が忙しくて時間がとれない」が59.4%と最も多く、次いで「学習活動を始めきっかけがない」が35.0%、「学習に関心はあるが、自分が学びたいことがまだ決まっていない」が28.6%となっています。(図表 6)

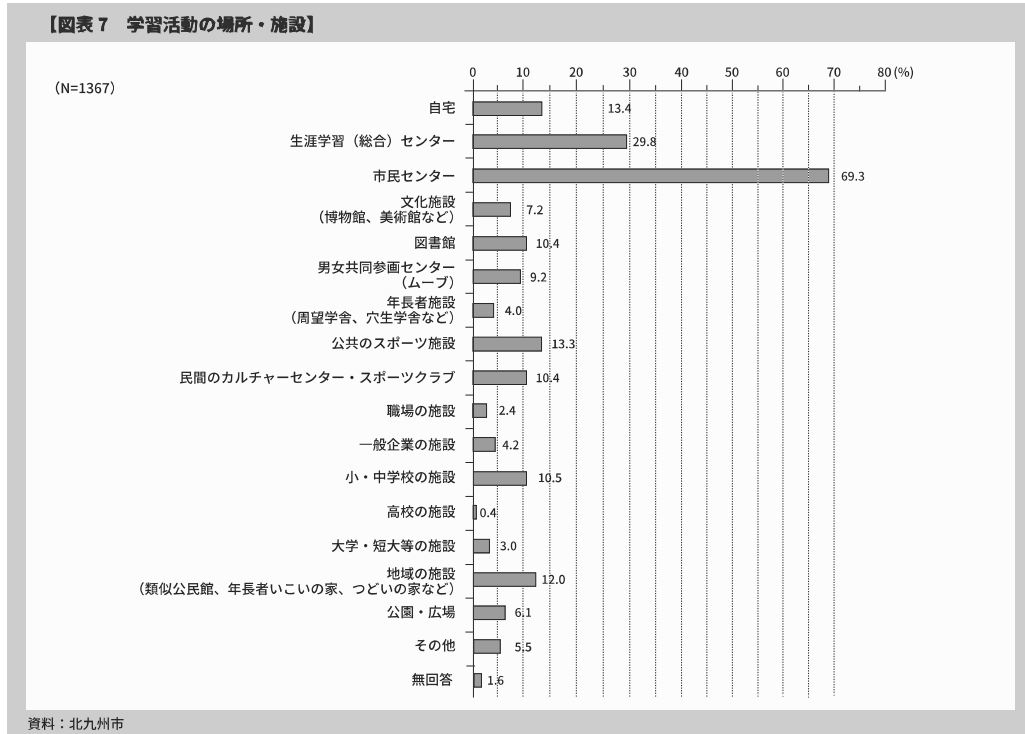
【図表 6 学習活動をしていない理由】



資料：北九州市

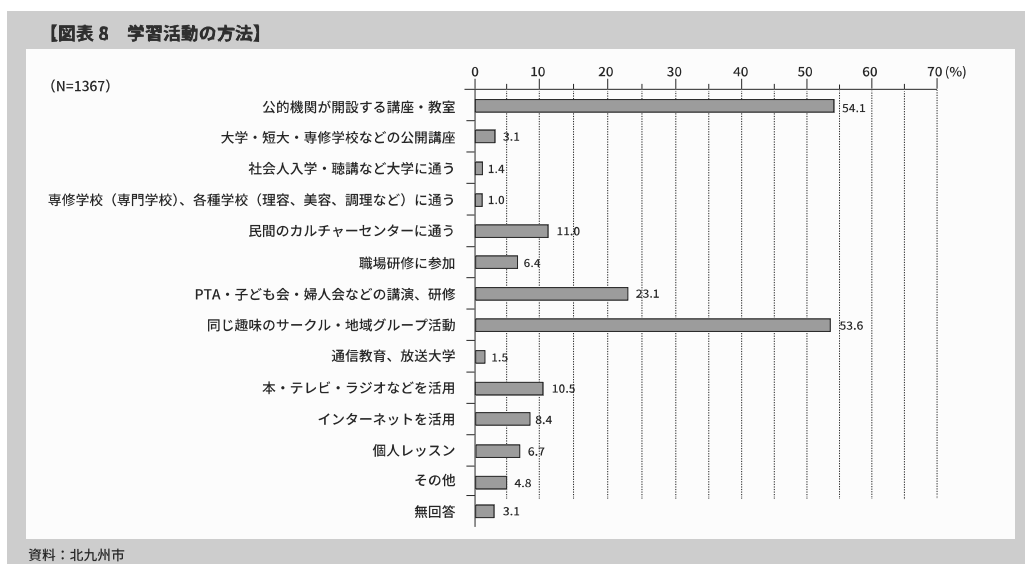
(4) 学習活動の場所と方法

○学習活動を行う場所・施設は「市民センター」「生涯学習(総合)センター」「自宅」など学習活動を行う場所は、「市民センター」が69.3%と多く、次いで「生涯学習(総合)センター」が29.8%、「自宅」が13.4%となっています。(図表7)



○学習活動の方法は「公的機関が開設する講座・教室」「同じ趣味のサークル・地域グループ活動」の割合が多い

学習活動の方法は、「公的機関が開設する講座・教室」が54.1%と最も多く、次いで「同じ趣味のサークル・地域グループ活動」が53.6%、「PTA・子ども会・婦人会などの講演、研修」が23.1%となっています。(図表8)

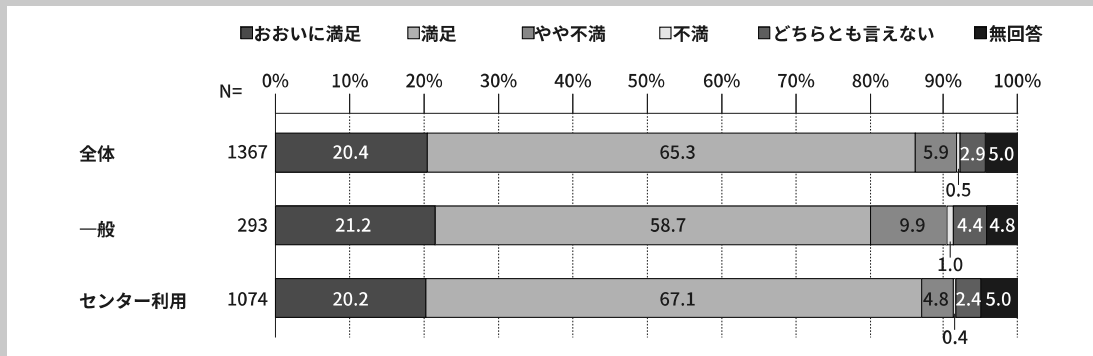


(5) 学習活動に対する満足度

○学習活動に「満足している」割合は約9割

学習活動に対する満足度は、全体では「満足」が65.3%と最も多く、次いで「おおいに満足」が20.4%、「やや不満」が5.9%となっています。「おおいに満足」と「満足」を合わせた『満足』は、85.7%となっています。(図表9)

【図表9 学習活動についての満足度】



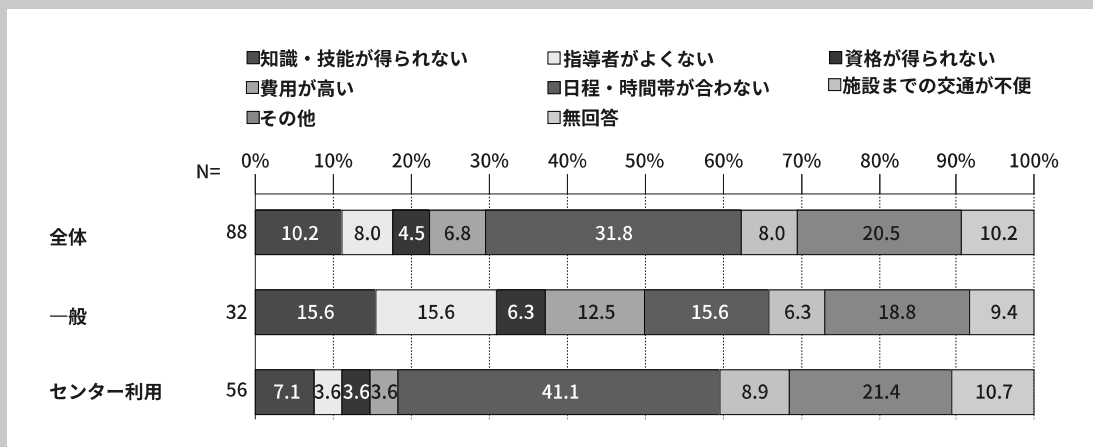
資料：北九州市

○満足していない理由は「日程・時間帯が合わない」「施設までの交通が不便」など

学習活動に満足していない理由は、全体では「日程・時間帯が合わない」が31.8%と最も多く、次いで「知識・技能が得られない」が10.2%、「指導者がよくない」「施設までの交通が不便」がともに8.0%となっています。

一般市民は「知識・技能が得られない」「指導者がよくない」「日程・時間帯が合わない」(同率15.6%)が最も多くなっています。一方、センター利用者は「日程・時間帯が合わない」(41.1%)が最も多くなっています。(図表10)

【図表10 学習活動に対する不満の理由】

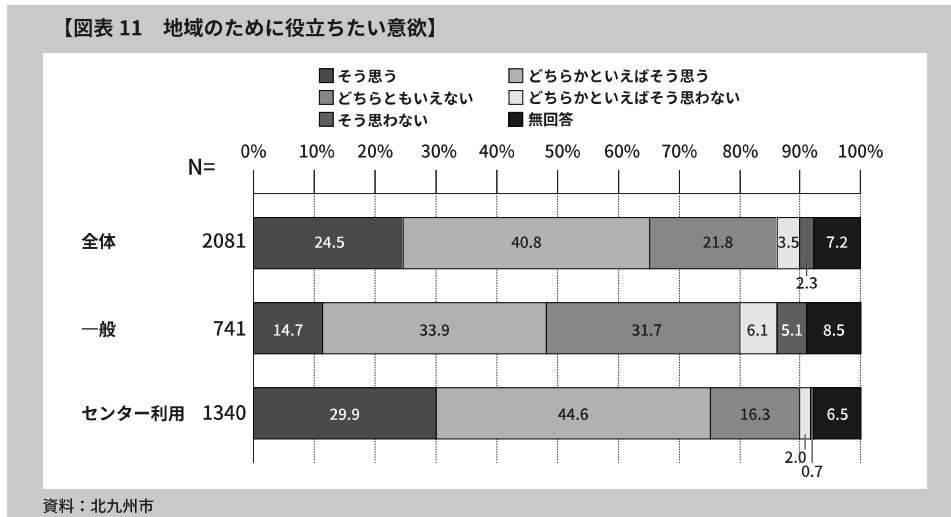


資料：北九州市

(6) 学習成果の活用

○「地域のために役立ちたい」に肯定的な意見の割合が約7割

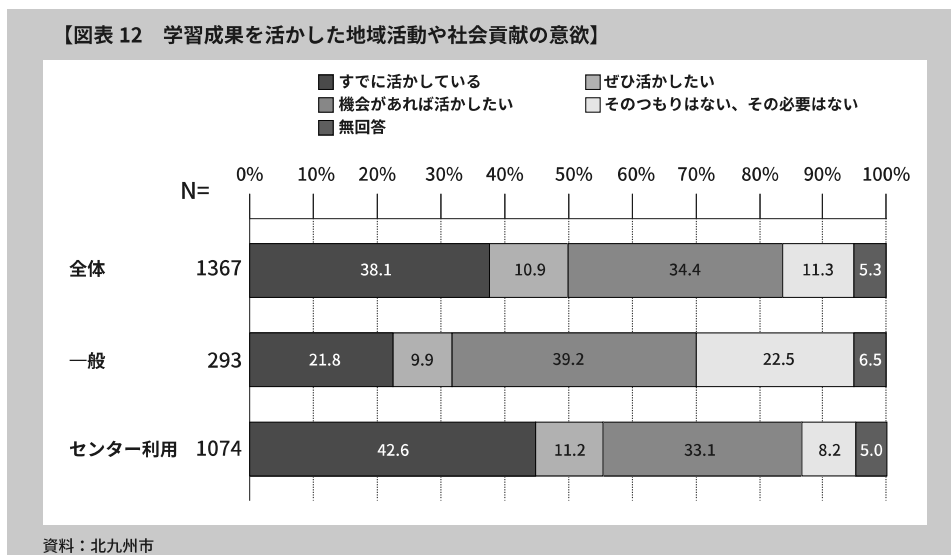
「どちらかといえばそう思う」が40.8%と最も多く、次いで「そう思う」が24.5%、「どちらともいえない」が21.8%となっています。一般市民、センター利用者ともに「どちらかといえばそう思う」が最も多くなっています。(図表 11)



○学習成果を社会貢献に活かすことに肯定的な意見の割合が約8割、「すでに活かしている」の割合が約4割

学習成果を活かした地域活動や社会貢献への意欲は、全体では「すでに活かしている」が38.1%と最も多く、次いで「機会があれば活かしたい」が34.4%、「そのつもりはない、その必要はない」が11.3%となっています。

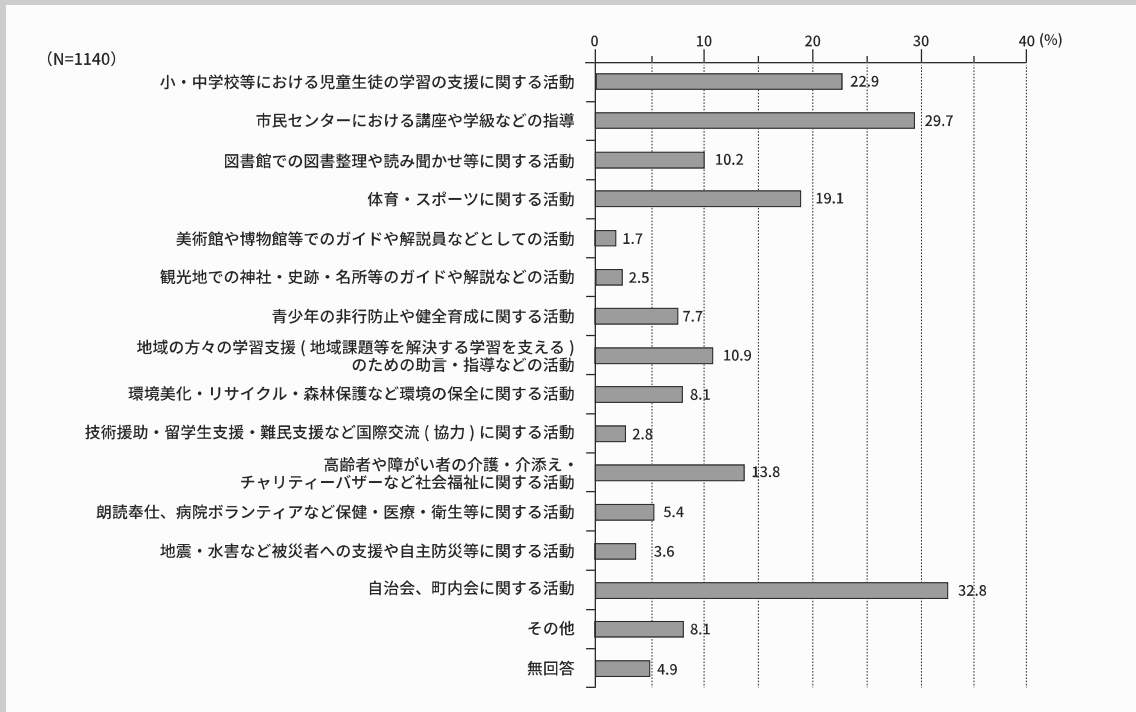
一般市民は「機会があれば活かしたい」(39.2%)が最も多くなっています。一方、センター利用者は「すでに活かしている」(42.6%)が最も多くなっています。(図表 12)



○学習成果を活かしている(活かしたい)分野は「自治会、町内会活動」「市民センターにおける学習活動」「小・中学校等に関する支援活動」

これまでの学習成果を活かしている(活かしたい)分野は、「自治会、町内会に関する活動」が32.8%と最も多く、次いで「市民センターにおける講座や学級などの指導」が29.7%、「小・中学校等における児童生徒の学習の支援に関する活動」が22.9%となっています。(図表13)

【図表13 これまでの学習成果を活かしている(活かしたい)分野】



資料：北九州市

一般市民は「体育・スポーツに関する活動」(28.8%)が最も多くなっています。一方、センター利用者は「自治会、町内会に関する活動」(35.6%)が最も多くなっています。(図表13-1)

【図表13-1 これまでの学習成果を活かしている(活かしたい)分野(一般市民、センター利用者)】

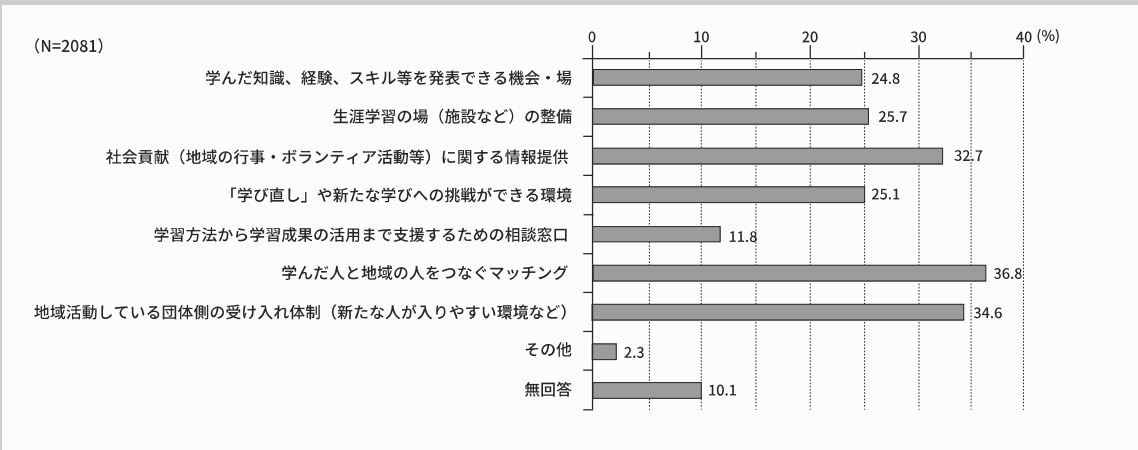
| | 全体 | 小・中学校等における児童生徒の学習の支援に関する活動 | 市民センターにおける講座や学級などの指導 | 図書館での図書整理や読み聞かせ等に関する活動 | 体育・スポーツに関する活動 | 美術館や博物館等でのガイドや解説員などとしての活動 | 観光地での神社・史跡・名所等のガイドや解説などの活動 | 青少年の非行防止や健全育成に関する活動 | 地域の方々の学習支援(地域課題等を解決する学習を支える)のための助言・指導などの活動 | 環境美化・リサイクル・森林保護など環境の保全に関する活動 | 技術援助・留学生支援・難民支援など国際交流(協力)に関する活動 | 高齢者や障がい者の介護・介添え・チャリティーパーザーなど社会福祉に関する活動 | 朗読奉仕、病院ボランティアなど保健・医療・衛生等に関する活動 | 地震・水害など被災者への支援や自主防災等に関する活動 | 自治会、町内会に関する活動 | その他 | 無回答 |
|---------|--------|----------------------------|----------------------|------------------------|---------------|---------------------------|----------------------------|---------------------|--|------------------------------|---------------------------------|--|--------------------------------|----------------------------|---------------|-----|-----|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | (%) |
| 全体 | 1,140人 | 22.9 | 29.7 | 10.2 | 19.1 | 1.7 | 2.5 | 7.7 | 10.9 | 8.1 | 2.8 | 13.8 | 5.4 | 3.6 | 32.8 | 8.1 | 4.9 |
| 利用者別 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 一般 | 208人 | 18.3 | 14.9 | 6.7 | 28.8 | 2.9 | 3.8 | 5.8 | 5.8 | 9.1 | 8.7 | 13.5 | 6.7 | 6.3 | 20.2 | 7.2 | 5.3 |
| センター利用者 | 932人 | 23.9 | 33.0 | 10.9 | 17.0 | 1.4 | 2.1 | 8.2 | 12.0 | 7.8 | 1.5 | 13.8 | 5.0 | 3.0 | 35.6 | 8.3 | 4.8 |

資料：北九州市

○学習成果を社会貢献へ活かすために求められていることは、「学んだ人と地域の人をつなぐマッチング」

社会貢献へ活かすために求められることは、「学んだ人と地域の人をつなぐマッチング」が36.8%と最も多く、次いで「地域活動している団体側の受け入れ体制（新たな人が入りやすい環境など）」が34.6%、「社会貢献（地域の行事・ボランティア活動等）に関する情報提供」が32.7%となっています。（図表14）

【図表 14 生涯学習を地域活動等に活かすために必要なこと】



資料：北九州市

一般市民では「地域活動している団体側の受け入れ体制（新たな人が入りやすい環境など）」（34.0%）が最も多くなっています。一方、センター利用者では「学んだ人と地域の人をつなぐマッチング」（39.9%）が最も多くなっています。（図表14-1）

【図表 14-1 生涯学習を地域活動等に活かすために必要なこと（一般市民、センター利用者）】

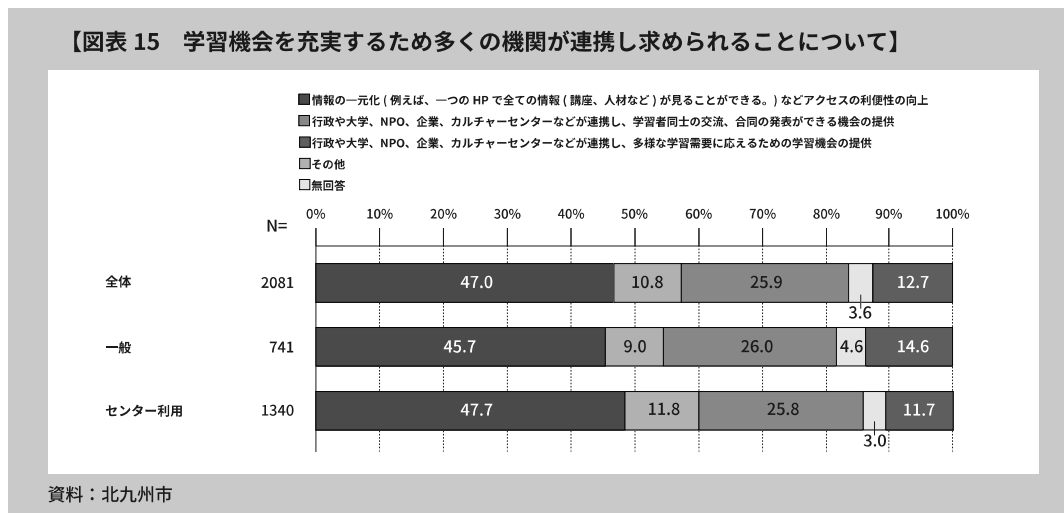
| | | 全体 | 学んだ知識、経験、スキル等を発表できる機会・場 | 生涯学習の場（施設など）の整備 | 社会貢献（地域の行事・ボランティア活動等）に関する情報提供 | 「学び直し」や新たな学びへの挑戦ができる環境 | 学習方法から学習成果の活用まで支援するための相談窓口 | 学んだ人と地域の人をつなぐマッチング | 地域活動している団体側の受け入れ体制（新たな人が入りやすい環境など） | その他 | 無回答 (%) |
|------|---------|--------|-------------------------|-----------------|-------------------------------|------------------------|----------------------------|--------------------|------------------------------------|-----|---------|
| 全体 | | 2,081人 | 24.8 | 25.7 | 32.7 | 25.1 | 11.8 | 36.8 | 34.6 | 2.3 | 10.1 |
| 利用者別 | 一般 | 741人 | 21.1 | 27.7 | 32.4 | 27.8 | 16.2 | 31.2 | 34.0 | 3.1 | 12.0 |
| | センター利用者 | 1,340人 | 26.9 | 24.6 | 32.9 | 23.6 | 9.3 | 39.9 | 34.9 | 1.9 | 9.1 |

資料：北九州市

(7) 今後の生涯学習に求められること

○市民の学習機会を充実するため、多くの機関が連携を深め「情報の一元化などアクセスの利便性の向上」が求められている

全体では「情報の一元化（例えば、1つのHPで全ての情報（講座、人材など）が見ることができる。）などアクセスの利便性の向上」が47.0%と最も多く、次いで「行政や大学、NPO、企業、カルチャーセンターなどが連携し、多様な学習需要に応えるための学習機会の提供」が25.9%、「行政や大学、NPO、企業、カルチャーセンターなどが連携し、学習者同士の交流、合同の発表ができる機会の提供」が10.8%となっています。（図表 15）



○行政が趣味・文化的な講座を主催することについては、「行政と民間との間で整理すべき」「今までどおりで良い」の割合がともにほぼ同程度（約3割）

行政が趣味・文化的な講座を主催することについて、全体では「行政と民間との間で整理すべき」が29.2%と最も多く、次いで「今までどおりで良い」が27.0%、「今まで以上に行政が積極的に行うべき」が20.3%となっています。

一般市民は、「行政と民間との間で整理すべき」（31.8%）が最も多くなっています。一方、センター利用者は「今までどおりで良い」（32.0%）が最も多くなっています。（図表 16）

